

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年8月27日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			8月の発生量 （平年比）	8月からの 増減	9月の発生量 （平年比）	
カンショ	①	イモキバガ	並	↓	やや少	平年の発生量の推移（↓）
	②	エビガラスズメ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
（温州みかん）	①	そうか病	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	②	黒点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（タンカン）	①	かいよう病	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移（↑）
	②	黒点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	多	→	多	平年の発生量の推移（→）
	②	マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↑	やや多	例年の発生量の推移（↑）
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
オクラ	①	フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	②	チョウ目幼虫	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンシヨ	トリバ類	一部ほ場で発生が見られた。幼虫が葉を食害する。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。
さとうきび	バッタ類	久米島で発生が多くなっている（防除員報告）。タイワンツチイナゴは、年1回の発生で幼虫は4～6月に、成虫は6～8月にかけて出現する。トノサマバッタは、年3～4世代発生する。ほ場周辺のイネ科雑草は、若齢幼虫の好適な餌となるので除去に努める。防除は幼虫期の実施が効果的なので、ほ場及び周辺の見回りを行い幼虫の早期発見に努める。成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。
かんきつ	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガ、タイワンキドクガの発生が見られた。ガ類幼虫は新葉を食害するので、発生源となる不要な新梢を取り除く。また施設内を見回り、幼虫や食害痕が見られたら早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。
オクラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。
	カメムシ類	一部のほ場でカメムシの発生が見られた。成、幼虫がさく果や蕾を吸汁加害する。見た目では被害はほとんどわからないが、さく果を切断すると子実が変色したり、吸汁部が褐色に変色している。さく果の基部が加害されると内部がスポンジ状になる。イネ科雑草等で世代を経過し、幼虫は5齢を経て1カ月程度で成虫になる。ほ場周辺のイネ科雑草の除去、登録農薬を散布し防除に努める。

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年8月27日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			8月の発生量 （平年比）	8月からの 増減	9月の発生量 （平年比）	
マン ゴ ー	①	チャノキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→） -----
	②	マンゴーハフクレタマバエ	並	→	並	平年の発生量の推移（→） -----
	③	ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘） -----

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年8月27日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○9月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			8月の発生量 (平年比)	8月からの 増減	9月の発生量 (平年比)	
(2 水 期 稲)	①	スクミリンゴガイ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
マ ン ゴ ー	①	チャノキイロアザミウマ	やや多	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	②	マンゴーハフクレタマバエ	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗)
	③	ハダニ類	多	→	多	平年の発生量の推移 (→)
オ ク ラ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③	フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
④	チョウ目幼虫	並	↗	並	平年の発生量の推移 (→)	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
水 稲	斑点米カメムシ類	県内の主要種はクモヘリカメムシ類、ホソハリカメムシ、アカカメムシ、アカスジホソナガカスミカメ、ミナミホソナガカメムシで、穂の吸汁加害により斑点米を生じる。出穂期までは畔や水田周辺の雑草で生息するため、定期的な除草により初期密度を低減する。
	トビイロウンカ	前作で本種による坪枯れが見られた地域では、薬剤抵抗性を考慮して防除薬剤を選定する。箱処理剤の施用に加えて、本田で発生が見られたら速やかに散布を行う。薬剤散布は、本種が多く寄生する水面近くの株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。
	コブノメイガ	二期作では初期から多発生する場合があるため、常発ほ場や一期作で発生が見られたほ場では計画的に防除を行う。老齢幼虫は薬剤の効果が劣るため、成虫発生期に薬剤を散布する。また多肥栽培を避け、発生源となる雑草を除去する。
マ ン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガ、コシロモンドクガ、タイワンキドクガの発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
オ ク ラ	葉すす病	一部ほ場で発生が確認された。不要な下葉を除去するとともに、発生確認時及び台風・大雨の前後には登録農薬を散布する。
	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。切り戻し後萌芽した株は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。